（様式３）

法人名と施設名の両方を記入する。

事 業 計 画 書

施設系サービスの事業者が見守りロボットを導入する場合の記載例です。

（補助事業者名：　**法人名　＋　施設名**　）

補助事業名（区分）	介護ロボット導入支援事業
具体的な事業内容	介護ロボット導入後３年間の①達成すべき目標、②導入すべき機器、③期待される効果等 **① 達成すべき目標** **【現状】** ・転倒・転落リスクのある利用者が非常に多く、入所定員〇〇名に対し、常時、見守りが必要な利用者が〇〇名以上、常に入所している。また、認知症の症状も重度化しており、離床の際に転倒するケースが非常に多く、**令和元年度の転倒・転落件数は、月平均〇〇件**である。 ・夜間においては、〇〇名の介護スタッフが、1時間に1回の巡回（合計〇〇回）を行い、利用者の状況を確認しているがい、特に見守りが必要な入所者〇〇名に対しては、**定期巡回の間に、さらに〇〇回の追加巡回**を行っており、合計〇〇回以上の見守りが必要になっている。 **【目標】** ・利用者の**転倒・転落事故**を、**月平均〇〇件（〇〇%減）**にする。 ・夜間、特に見守りが必要な利用者の追加巡回は、センサー検知時のみとし、**追加巡回回数を〇〇件（〇〇%減）**にする。 **② 導入すべき機器** 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 （機器の特徴等を記載し、「上記① 達成すべき目標」にどう役立つのかを記載する） **③ 期待される効果等** 〇〇〇〇〇を導入することで、離れた場所でも複数同時に、早期に離床に繋がる状況を把握できるとともに、不要な居室訪問を減らすことができる。これにより、次のような効果が期待できる。 【利用者の居住環境の向上】 ・センサー鳴動時に、適切な対応を行うことにより、利用者の転倒を予防できる。 ・不要な居室への訪問を行わずに済むことで、夜間等の睡眠を妨げることが無くなり、居住環境が向上する。 ・離床に至るデータの検証により、支援方法の見直しが行え、サービスを効果的・効率的に提供できる。 【介護スタッフの負担軽減】 ・不要な居室への訪問を行わずに済むことで、見守り業務の時間を他の業務に充てることができる。 ・転倒事故が減少することにより、経過観察や記録などの業務が減少する。 **【重要】介護スタッフの負担軽減に係る介護ロボット導入計画を作成する！** **☆☆☆「達積すべき目標」を記入する際のポイント☆☆☆** ポイント①：**施設の現状**について、**具体的な数字**を交えて記入する。 ポイント②：施設の現状を踏まえた上で、**介護スタッフの負担軽減となる目標について具体的な数字**を交えて記入する。
事業の着手日（予定）	交付決定後
事業の完了日（予定）	令和3年2月26日